「調査担当者とあるく宮脇町一丁目遺跡とその周辺」配布資料 2025年6月7日（土）

図１：讃岐高松城下絵図（天保13年～弘化3年 1842～46）
【絵図は高松市歴史資料館蔵】

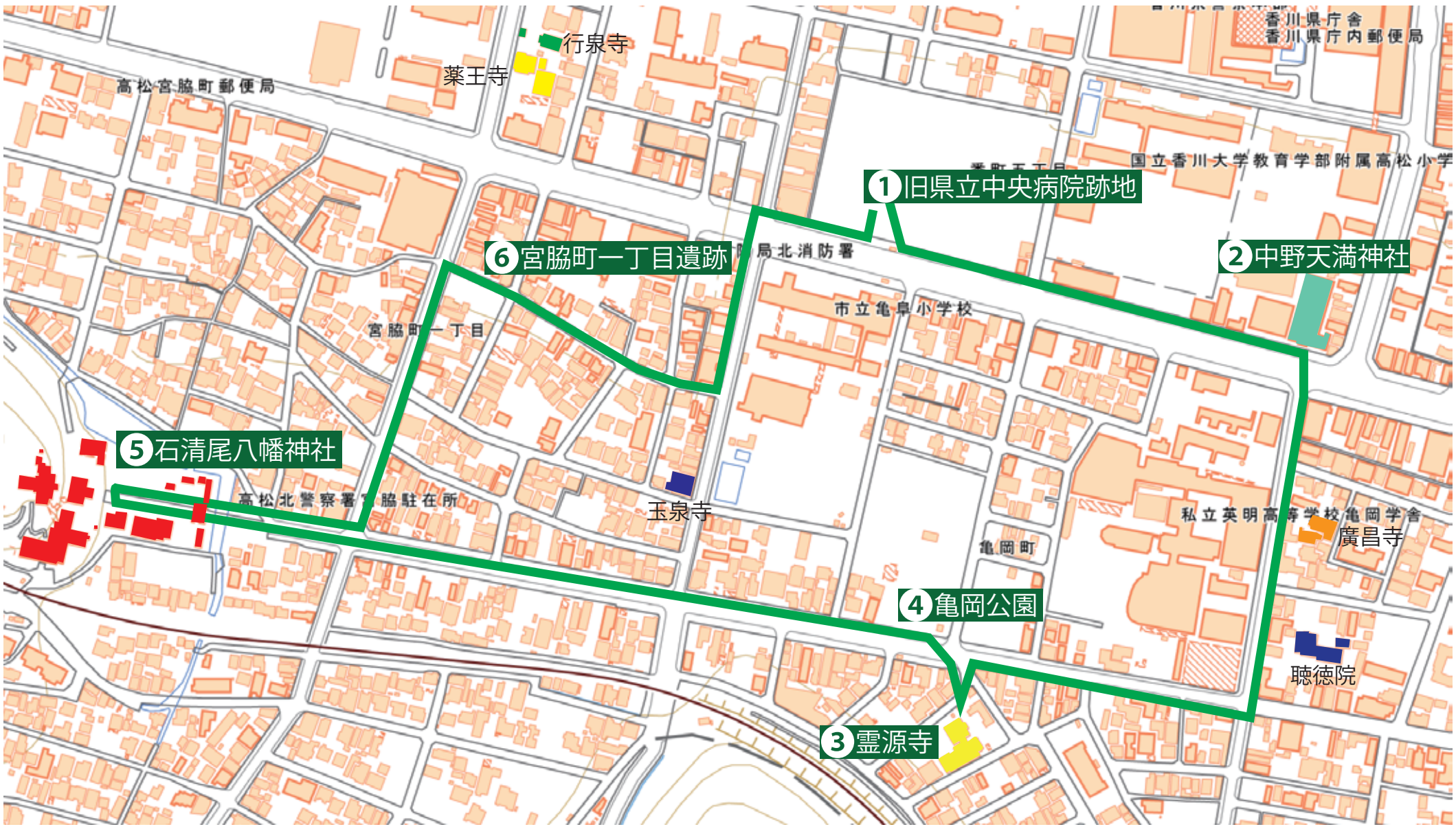

図２：本日の経路【国土地理院地図 /GSIMaps の一部に加筆して作成】

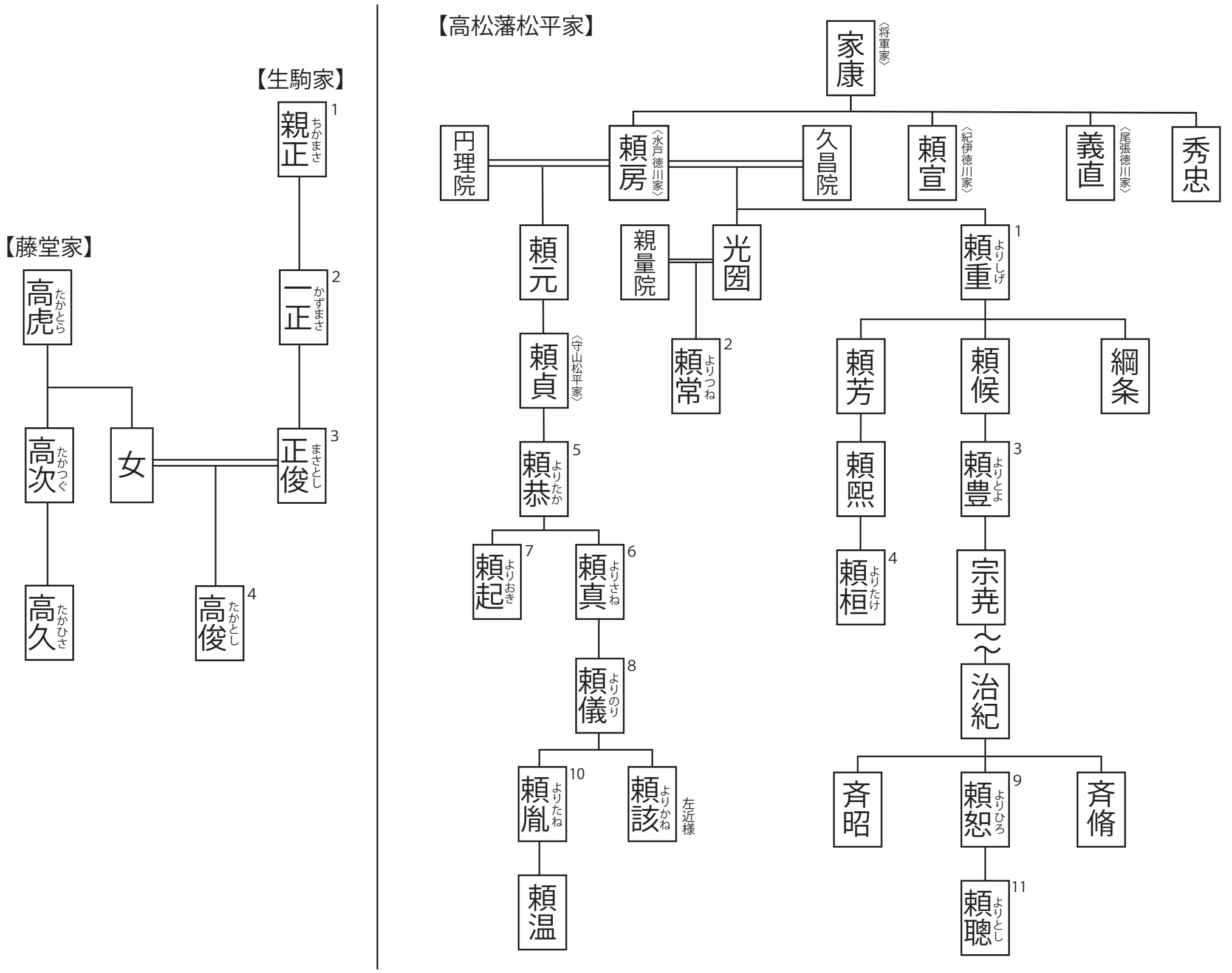

図３：讃岐藩主家の家系図

享保年間高松城下図
（享保三年以降1718～36）

高松市街古図
（文化年間：1804～18）

讃岐高松城下絵図
（天保13年～弘化３年：1842～46）

図４：絵図と調査地の位置関係（絵図：高松市歴史資料館蔵）

近世城下町の絵図や古図は発掘調査においても有効な手がかりとなります。

今回の調査地である宮脇町一丁目遺跡の北にある二番町小学校遺跡でも、検出した溝や柵の位置を絵図と照らし合わせることで高松藩士屋敷地の区割を明らかにしています。

ちなみに、今回の調査地を近世の絵図でみると、享保年間には板葺きの屋敷地だったのが、文化年間には五百羅漢が祀られ、天保年間には祥福寺といったような変遷が読み取れます。また、今回の発掘調査では調査地が、江戸時代以前には河川の範囲内や湿地であったことが判明しました。絵図にも数多く水路が描かれており、江戸時代には水利施設の整備が行われたことが読み取れます。